

## 「美しいふるさと・榑崎」づくりプロジェクト ～みんなの笑顔・元気・ちえがいっぱい～

下関市立榑崎小学校

### 1 目的

- 花の栽培活動に取り組むことにより、生命を育てることの難しさと喜びを感じたり、地域の方の知恵や支えの素晴らしさに尊敬や感謝の念を抱いたりすることができるようにする。
- 多くの人で環境整備に取り組むことにより、学校を愛する人たちの思いを感じ、愛校心を高める。
- みんなで協力して、長い時間をかけて一つのことを成し遂げる経験をする。
- 地域の方の助けを受けながら活動を進めることで、自分も地域の一員として地域を愛し、地域のためになることをしたいという心情を養う。

### 2 活動内容

- 学校花壇の整備
  - ・ 地域の方々の様々な助けを受けながら、夏花壇・冬花壇の花の苗植えを行い、日々の成長や美しさを楽しむ。
- 樹木の剪定、草刈り
  - ・ 校内の樹木の剪定や草刈りを支援団体「ヒマラヤ会」と共に、PTA、教職員が協働して行い、子供の学ぶ環境を整える。
- 環境整備を通してつながりを広げる
  - ・ 月に1回ボランティア活動に来てくれる中学生にも協力してもらおう。

### 3 活動の実際

#### (1) 学校花壇の整備

##### ① 夏の花苗植え

校務技士を中心に耕した正門前の花壇に、夏の花苗を子供たちの有志、地域や保護者のボランティアの方と共に夏の花の苗を植えた。子供たちは、昼休みにもかかわらず20人程度集まり、校務技士や地域の方の指導を受けながら花の苗を植えた。とても丁寧に取り組み、植えた花苗を見ながら自分たちの活動に満足そうだった。地域の方も10人程度集まり、準備や水やり、プランターへの植え付け等して下さった。



児童有志が集合



地域の方と共に苗植え



あっという間に完了

## ② 冬の花苗植え

10月、全校児童が縦割り班活動として冬花壇用の花苗を植えた。その際、地域のボランティアの方が再び集まってくださり、子供たちと一緒に花苗を植える活動を行った。花壇以外のプランターへの植え付け、道具の世話、水やり等力を貸してくださった。子供たちは2回目なのでかなり要領もわかり、円滑に活動化することができた。また、今回は全員参加としたことで、花壇への愛着もさらに高まってくると思われる。



事前準備をされる地域の方



冬の花の苗植え



縦割り班での活動

## (2) 樹木の剪定、草刈り等

### ① ヒマラヤ会・PTAの活動

本校は、毎年2回6月と9月にヒマラヤ会という支援団体を中心に、樹木の剪定と草刈りを行っている。ヒマラヤ会というのは地域の檜崎小学校のOBを中心に結成されている学校の環境美化の支援団体で、毎年2回の作業を行ってくださっている。PTAもそれに合わせて奉仕活動を計画し、共に樹木の剪定や草刈り、草取りを行っている。その活動規模と技術は見事なもので、1年を通して校内の樹木は美しさを保っている。また、夏場の職員による草刈り作業の負担は大きく軽減され、9月の運動会は美しい環境の中で開催できている。

今年度も多くの方の御協力をいただき、6月と9月に作業を行うことができた。



6月の活動



専門的な技術での剪定



マツが見事な形に



9月の活動



運動会前に運動場も整備



花壇の中もきれいに

### ② 中学生の参加、

「菊川で学び、活躍する日」と称して、月に1回程度中学生がボランティア活動に来てくれる。その機会を生かして、校地内の枯れ葉・枯れ草集めをしてもらった。小学生にとって、一番身近な先輩である中学生が小学校のために力を出してくれる



ことは、地域のつながりを感じる上でも愛校心を養う上でも大変有効であると考えられる。



運動場の枯れ葉集め



一輪車いっぱいの草



草置き場へ

### ③ 地域のボランティアの方による支援



刈った草でいっぱいになった置き場



重機で整備

P T Aからの依頼を受けた地域の方がいっぱいになった学校の草置き場を重機を使って整備してくださいました。見違えるようにきれいになり、捨てる場所も広がりとてもありがたかった。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 学校・家庭・地域が協働したことにより、1年を通して整った環境を維持することができた。
- ・ 学校花壇の花苗植えを子供と地域の方が一緒に行うことで、子供にとっては学校への愛着、地域の方への親近感や感謝の気持ち、美しい花が育つことへの期待や関心等が育つことが期待される。とてもよい体験となった。
- ・ 地域の方と共に環境美化に携わることで、学校を中心に地域の一体感が生まれ、学校教育を支え合う基盤づくりに大いに効果があると考えられる。
- ・ 中学生が活動に参加してくれたことで、小学生にはよい生き方モデルになり、中学生にとっては地域の担い手としての自覚づくりに役立つと考えられる。
- ・ 来年度以降の活動の基盤ができた。

### (2) 課題

- ・ 成果をより確かなものとするためには、活動を継続していくことが必要である。持続可能な計画づくりと資金の裏付けをもつこと。
- ・ 大人の敷いたレールに子供を乗せるだけでなく、子供自身の発想や計画を取り入れていくこと。
- ・ 賛同してくださる地域やP T Aの方を増やすこと。
- ・ さらに軌道に乗れば、学校内だけでなく、地域貢献につながるような活動を少しずつでも模索していきたい。